

第8回 オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会

議事概要

1. 日 時：平成29年3月27日（月）10:00～12:00

2. 場 所：中央合同庁舎8号館6階 623会議室

3. 出席者：（敬称略）

引原（座長）、喜連川（副座長）、高木、林、藤井、村山の各構成員、原山議員、笹井参考官、真子補佐

4. 議事

（1）プレゼンテーション

有識者から、オープンサイエンス推進に向けた取組について、プレゼンテーションが行われた。

① 「G7オープンサイエンスWG報告」（村山委員）

＜発表のポイント＞

- ✓ オープンサイエンスに関する国際動向と国際政策
- ✓ G7オープンサイエンス・ワーキンググループ設置の経緯、および過去2回の会合の内容
- ✓ G7オープンサイエンス・ワーキンググループ文書（案）の概要
 - ・課題1：インセンティブ、スキル、評価
 - ・課題2：国際共通データインフラストラクチャ

② 「G7科学技術大臣会合フォローアップ「海洋の未来」ワークショップ報告」（JAMSTEC華房次長）

＜発表のポイント＞

- ✓ G7茨城つくば科学技術大臣会合後のフォローアップ内容
- ✓ フォローアップ会合での5つのアクションに関する議論
- ✓ 「アクション3」におけるデータ共有の議論と提案概要
 - ・データトランスレータ（Data Translator）の構築によるデータ利用の統合
 - ・オープンデータ協定（G7 Marine Open Data Accord）の締結

③ 「JSTにおけるオープンサイエンスへの対応」（JST小賀坂部長）

＜発表のポイント＞

- ✓ 研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針の策定
- ✓ 戦略的創造研究推進事業におけるDMP導入
- ✓ CHORパイロットプロジェクトによる取り組みと研究データ利活用協議会の活動状況

（2）事務局説明

事務局より、これまでの議論の状況のまとめと、今後検討すべきテーマ、および検討会としての方向性についての提案が行われた。

（3）主な意見等

上記のプレゼンテーション及び事務局説明を踏まえた意見交換が行われた。

（本検討会で議論及び検討すべき事項の確認）

- 国際的な枠組みの中で、各国のオープンサイエンスに関する取り組みを注視し、日本の立ち位置を考えた働きかけが重要である。
- 国や分野など、各レイヤーで議論が異なるため、うまくマッピングを行って、概念的な議論と実動が結びつくようにする必要がある。
- 海洋観測の分野では、オープンデータの取り組みが進んでいるため、この事例を他分野にも共有し、参考としていきたい。
- 論文のオープンアクセスについては、海外の出版社がリポジトリを持っていることが多いが、データに関しては日本国内で認証サーバの設置運営を行うなどの、主体性を持つことが極めて重要である。
- 公的な助成金での研究については方針が示されるようになったが、産業界を巻き込んだ取り組みを進める必要がある。

5. その他

次回の会議日程については、日程調整の上、連絡する。